

区分・種別	県指定有形文化財（典籍）		
名称	だいほんにゃきょう 大般若経 600巻		
所在地	四国中央市新宮町新宮		
所有者	熊野神社	管理団体	
指定年月日	昭和41年4月5日		
解説	<p>大般若経とは、大般若^{はらみたくょう}波羅蜜多^{はらみたくょう}経の略で、般若波羅蜜多（悟りの知恵）の義を説く諸經典を集成したもので全600巻ある。この大般若経は、墨書の写経^{かんす}で卷子仕立、各巻とも縦25.3cm、1行17字詰、経櫃^{きょうびつ}2個に600巻が分納されている。奥書によれば、この大般若経は沙弥定廣^{しゃみ}が願主となり龍円が執筆して、嘉禄2（1226）年11月与州宇摩新宮において書写を終了したとある。また、別の書体で應永11（1404）年に金剛佛子宥儀が表紙奥行の旦那^{だんな}となった旨の記載があり、補修装丁されたことがわかる。この写経は紙質、筆跡ともに鎌倉時代初期のものである。熊野神社鏡には、貞應2（1223）年3月6日「信山大法主沙弥定廣」の銘があり、この写経も同一人物と推定されている。</p>		

